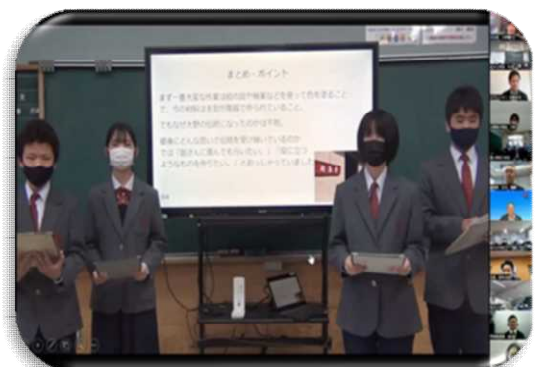


令和4年度

「ふるさと学習」

実践事例集



令和5年6月

廿日市市教育委員会

令和4年度 「ふるさと学習」 実践事例集
目 次

〈学校名等〉	学年	〈单元名〉	〈ページ〉
1 廿日市小学校	5	食べ物を調べよう～地産地消のオリジナル弁当を作ろう～	1
2 平良小学校	4	はつかいち もくもく調査隊～廿日市市のすばらしさを伝えよう～	2
3 原小学校	3	「はらっ鼓笛隊」について調べよう	3
4 宮内小学校	3	宮内ってすてき！～宮内のよさを発信しよう～	4
5 地御前小学校	3	地御前のむかしのすてきをみつけよう	5
6 佐方小学校	3	安心してくらせるまちづくり～佐方の町の親切プロジェクト～	6
	4	安全・安心なまちづくり～佐方っ子防災大作戦～	7
	5	お米大好き大作戦～探ろうお米の魅力・伝えようお米の魅力～	8
	6	SAGATA TREASURE～ふるさと佐方小学校校区のために自分たちができること～	9
7 阿品台東小学校	6	「ずっと住み続けたい阿品台に」～私たちにできること～	10
8 阿品台西小学校	3	阿品のすてき	11
9 金剛寺小学校	4	串戸の福祉～串戸のまちづくりをしよう！～	12
10 宮園小学校	4	ぼくらのピオトープ パート2	13
11 四季が丘小学校	6	四季が丘未来づくりプロジェクト～四季が丘の未来は自分たちの手に～	14
12 友和小学校	4	ふるさととのつながりを深めよう～みんなで調べよう！ふるさと調査隊～	15
13 津田小学校	6	「津田の歴史をたずねよう」～津和野街道・十王堂～	16
14 吉和小・中学校	3～6	吉和の宝を見つけ、発信しよう	17
15 大野東小学校	1	がっこうだいすき・なつがやってきた いきものとなかよし・たのしいあきいっぱい	18
	2	みんなでつかう まちのしせつ	19
	3	大野のすてきを見つけよう	20
	6	大野の今を見直そう！	21
16 大野西小学校	3	「大野のステキを見つけよう」～大野の昔～	22
17 宮島小学校	3	宮島の昔のくらしのよさを伝えよう～もっと知りたい宮島～	23
18 廿日市中学校	1	廿日市の魅力をキャッチコピーで伝えよう	24
19 七尾中学校	2	ふるさと広島県(廿日市市)を近畿地方と比較しながら見つめる	25
20 阿品台中学校	1	「ふるさと学習Ⅰ(宮島)・SDGs」「ふるさと学習Ⅱ(阿品)・防災学習」	26
21 野坂中学校	1	宮島の観光地としての魅力を調べ、その魅力を発信しよう！	27
22 四季が丘中学校	1	四季Tプロジェクトふるさとの魅力を見つめ、他の地域の人に届けよう！	28
23 佐伯中学校	1	佐伯の良さを再発見しよう～地域比較学習をとおして～	30
24 吉和中学校	1～3	吉和の未来を考えるⅠ～Ⅲ	31
24 大野中学校	3	大野元気プロジェクト	32
25 大野東中学校	1	地域とつながる「大野を知ろう」～大野の魅力を発見しよう～	33
26 宮島中学校	2・3	宮島☆未来プロジェクト	34

令和4年度「ふるさと学習」オンライン発表会では、3校が学習の成果を発信しました。

【発表校】佐方小学校6年生 「佐方小学校校区の未来をえがこう」

原小学校3年生 「進め！はらっ鼓笛隊」

大野東中学校1年生「地域とつながる～大野を知ろう～」

単元名

「食べ物を調べよう」

【関連のある SDGs の目標】

～地産地消のオリジナル弁当を作ろう～



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎あなたにとっての「ふるさと」とは？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●廿日市のよさって何か。

【単元の目標】

- ・廿日市産の食材・伝統料理を調べ、オリジナル弁当を考える活動を通して、郷土の良さを再確認する。また、課題解決に主体的に取り組み、協力して課題の解決を行う力を育成する。
- ・キャリア教育の視点から、オリジナル弁当販売体験を通して、働くことの価値を考えていく。
- ・自分たちの活動のまとめとして、参観日にオリジナルレシピの発表会を開き、表現する力を高める。

【連携諸機関・人物】

J A 佐伯中央 久保田英樹様
廿日市給食センター
竹本裕美栄養教諭
阿品台西小学校
重村みゆき栄養教諭
平良小学校 吉山由衣栄養教諭
株式会社 A & C 木本雄太様
廿日市市役所（学事課）、廿日市 FM、ゆめタウン廿日市、廿日市中央市民センター、廿日市市民活動センター、廿日市高校、廿日市中学校、あい保育園住吉、廿日市聖母マリア幼稚園

活動の概要

日本の農業の課題を学習し、自分たちに出来る取組として、『地産地消のオリジナル弁当を作ろう』という課題を設定した。廿日市特産の食物や廿日市の良さについて情報収集し、弁当作りや販売に向けて具体的な計画を立てた。実際には、廿日市の食材を使ったレシピを作り、A & Cさんに弁当の製造を依頼した。そして、児童が廿日市の良さをアピールするちらしやポスター、パンフレット、包装紙を作り、弁当の宣伝、学校での販売を行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜稲の脱穀・精米＞



＜お弁当の宣伝活動＞



＜発表会＞

- ・導入段階で、社会科の「わたしたちの食生活と食料生産」の学習と関連づけ、J Aの方からお話を伺いながらバケツ稲を実際に育てることで、児童の食への興味・関心を高めた。
- ・自分の調べたことを整理分析し、新聞やパンフレットにまとめる際は、国語科で「新聞記事を読み比べよう」の学習と関連付け、意図が伝わる見出しの付け方や写真の活用法を考えさせた。タブレットを積極的に活用した。
- ・収穫した米をどうしたいか、児童の思いや願いを大切に課題設定や授業展開を行ったことで、児童は自分ごととして主体的に活動に取り組んだ。
- ・ゲストティチャー（栄養士さん・A & Cさん）を招聘し、お話を伺うことで、働くことの意味や価値を考えたり、物事を多角的に考えたりする機会を設定した。
- ・お弁当のレシピの作成では、特別活動「食生活を見直そう」の活動と関連づけ、栄養バランスの取れた食事について考えさせた。
- ・7つの料理グループに分け、児童が興味・関心のあるチームを自ら選択できる学習形態をとった。
- ・お弁当宣伝の際には、プロジェクトチームを立ち上げ、お弁当の売り上げアップのための方法を話し合った。児童主体で計画・実行し、課題解決能力の育成を図った。
- ・発表会では、見る方にお弁当で表現した地域やレシピのよさが伝わるよう、発表方法を工夫させた。劇や紙芝居、タブレットを活用しスライドにまとめて発表する等、児童の表現力を育成した。
- ・自分たちで考えたお弁当の販売を学校で行い、児童の達成感や満足感を高めた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 廿日市市の良さを再確認し、お弁当のレシピという形に表現することで、郷土に対する愛着が深まったり地産地消への関心が高まったりと児童の意識の変化が見られた。
- バケツ稲を育てたり、稲について新聞やレポートを書いたりしたことで、自分たちの食生活を振り返り、「感謝して食べる」、「残さないよう食べる」など、食材を作る人、調理をする人の気持ちを考える児童が増えた。
- ◇「廿日市には知らない『すてき』がいっぱいあった。廿日市の特産物を深く知れる機会になった。」「色んな人と協力し、互いに助け合い、どんなことでも自信をもって取り組むことを学んだ。」「一度だめだったらもう一度話し合っって何回も話し合いを繰り返すことが大切だということを学んだ。」「他の人の意見を聞いているだけではなく、自分の意見を発表する力がついた。」という振り返りをしていた。

単元名

はつかいち もくもく調査隊

～廿日市市のすばらしさを 伝えよう～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎「ふるさと廿日市」のよさって何だろう？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●廿日市市はどうして木のまちと言われるのだろうか？

【単元の目標】

廿日市市と木材の関係や歴史、産業について調べ、発信する活動を通して、課題を自ら見出し、課題解決に向けて主体的に活動する態度を育てるとともに、自分たちの住んでいる地域の一員として行動しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

・市役所
（教育委員会・シティープロモーション室）

活動の概要

前学年の総合的な学習の時間でまとめたことを想起しながら、「なぜ廿日市市は木のまちと言われているのか」という課題設定をした。そこから、けん玉や宮島細工、木材港などの廿日市市とつながりの深い木材についてテーマを設定し、調べ学習をしたりゲストティーチャーに話を聞いたりした。さらに、一人一人が疑問に思い、追究したことを新聞にまとめ、学級で交流したり家族に伝えたりした。また、学習して分かった木のよさを生かしたまちづくりについても想像を広げ、そのアイデアを県内に発信した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜ゲストティーチャーから話を聞く＞



＜児童が作成した新聞＞



＜新聞発表の様子＞

- ・ゲストティーチャーの話を聞くことで、廿日市市には森林が多いことや木材港の歴史などを知ることができ、「なぜ廿日市市が木のまちと言われているのか」という学習課題に迫ることができた。また、森林が豊かな海を作るという話を聞くことで、廿日市市は豊かな海に面しており、ふるさとを大切にしたいという思いにつなげることができた。
- ・国語科「みんなで新聞を作ろう」で学習したレイアウトや見出しなどの工夫をすることで、読み手が興味をもてる効果的な新聞づくりができた。
- ・「まちの木せかえアイデアコンテスト」に木のよさを生かした、環境に配慮した街づくりのアイデアを応募することで、学習したことを未来の廿日市市に結び付けて考えさせることができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 4コマ漫画を入れて興味を引く工夫をしたり、読み仮名をふって誰もが読みやすいようにしたりするなど、読み手を意識した新聞記事を書いていた。
- ◇森林が海の環境を守っていることを知った。豊かな森林が廿日市市にはあるので、自分にもできることをして自然を大切にしたい。
- ◇木は人に気持ちを落ち着かせる効果があることを知った。平良小学校の校舎や木の建物がたくさんある廿日市市がもっと好きになった。

単元名

「はらっ鼓笛隊」について調べよう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】◎原小の鼓笛を原地域の誇りとなる持続可能な伝統にするために私たちができることはなんだろうか？

【単元を貫く問い】●原小学校の鼓笛の歴史をひもとき、未来につなげるためにできることを考える。

【単元の目標】原小学校に長く続く「はらっ鼓笛隊」について調べる活動を通して、自ら課題を発見し、追究する。また、保護者・地域の方にアンケートやインタビューをする活動を通して、地域と学校に愛着を持つとともに、自分たちにできることを考える。

【連携諸機関・人物】

- ・保護者
- ・地域の方
- ・シティプロモーション室
- ・原市民センター

活動の概要

創立150周年を前に、自分たちの学校について、もっと知りたいことや調べたいことを話した結果、本校に昔からある「はらっ鼓笛隊」について興味をもった。地域・保護者の方々や児童にインタビューをしたりアンケートをとったりするなかで、「はらっ鼓笛隊」が原地域の大切な伝統であり宝物であることに気が付き、これからも自分たちが守っていききたいという思いを持った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICTの効果的な活用 等



＜資料・情報収集＞



＜インタビュー＞

- ・自分事として捉えることができるように、児童自身が知りたいこと調べたいことを視点として調査活動を行った。
- ・達成感をもつことができるように、情報収集の際、自らが足を運びお話を聞いたり、当時の写真や動画を見たりした。
- ・意欲や自信につながるよう、発表の回数をできるだけ増やし、色々な人に発表を聞いてもらった。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 自分事として捉え、最後まで興味を持ち続けて学習に取り組むことができた。
- 自分たちで情報を集めたという達成感をもつことができた。
- より良いものにしたいという意識が高まり、アドバイスや良かった点を伝えてもらうことで、意欲と自信につながった。
- ◇「はらっ鼓笛隊」は、原の地域に愛され大切にされてきた伝統だと分かった。
- ◇これからも「はらっ鼓笛隊」が長く続くように、自分たちも練習を頑張って守っていききたい。
- ◇ふるさと学習の発表を通して、多くの人に「はらっ鼓笛隊」のことを知ってもらえて嬉しい。

単元名

宮内ってすてき！
～宮内のよさを発信しよう～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎宮内の町はどんなよさがあるのだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●宮内のすてきなところはどんなところだろうか？

【単元の目標】

自分達が住んでいる町に関心をもち、情報を集め、リーフレットを作る活動を通して、宮内のよさに気づき、地域に誇りと愛着をもとうとする。

【連携諸機関・人物】

・保護者
・地域のお店

活動の概要

宮内の町を歩いたり、児童同士で情報共有したりした結果から、課題『宮内のよいところをしようかいしょう』を設定した。町のよいところについて、自然・お店・歴史等のグループに分かれて情報を収集し、その情報を整理しリーフレットにまとめた。また、グループに分かれて町のよいところを保護者にスライドを用いて発表した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



<町での調査>



<リーフレット作り>



<発表>

- ・児童が主体的に活動できるよう、自分の興味関心のあるテーマに沿ってグループを作り、実際に地域を見学し情報を収集した。
- ・情報収集やリーフレット作りではICTを活用し、ロイロノートを用いてアンケートを児童が作成・実施し結果を分析した。また、ICTを活用し協働的に学習できるようグループ内で情報を共有しながらリーフレットを作成した。
- ・調べたことを表現するために、国語科の「外国のことをしようかいしょう」の単元と関連させ、まとめたことをグループ内で分担しながら分かりやすく説明するために話し方の工夫をした。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 自分達が住んでいる町でも、知らないことがたくさんあることに気づき、意欲的に自分の選んだテーマについて調べることができた。
- グループで協力しながら情報収集を行い、宮内のよさが伝わるようにロイロノートを用いてリーフレットにまとめることができた。
- ◇宮内の歴史について調べて、宮内の歴史は奥が深いなと思い、もっと調べてみたいと思った。
- ◇まとめたことを、分かりやすく発表するためにたくさん練習して、お家の人に上手に発表できてよかった。

単元名

「地御前のむかしのすてきをみつけよう」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎地御前のよさを伝え続けていくためにはどうしたらよいのだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●どのようにすれば地御前のよさを伝えることができるのだろうか。

【単元の目標】

歴史ある地域の昔の様子について調べたり伝えたりする活動を通して、見つけた課題の解決に向けて見通しをもって取り組み、地域のよさに気付く。

【連携諸機関・人物】
・地域の方々

活動の概要

児童は、地域のために自分にできることをしたいと感じていることから、課題「地御前のむかしのすてきをみつけよう」を設定した。地域の方々に協力していただき、地御前のまちを巡ったり、インタビューを行ったりした。また、地域が作成している本やインターネットを用いた調べ学習を行い、保護者に調べたことを発表した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜まち巡りの様子＞



＜グループごとのインタビューの様子＞



＜発表会の様子＞

- ・導入では、地域の方からのお話を聞く機会を設け、「地御前の昔の様子を知り、よさを伝えてほしい」という願いを知る場を設定した。
- ・児童が主体的に計画・実行できるように、興味・関心のあるグループを自ら選択できるようにした。
- ・まちを巡ったり、地域の方々から話をお聞きしたり、児童自身が考えた質問をさせていただいたりすることで、児童が主体的に活動に取り組むことができた。
- ・地域の方にインタビューを行うことで、今まで知らなかったことをたくさん知ることができ、自分たちが住むまちのよさに触れ、もっと地御前について知ってもらいたいという気持ちが高まった。
- ・発表する場を設定することで、よりよいものを目指そうとグループで協力し合う様子が見られた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 自分たちが住む地御前には、昔から大切にされ続けているものがあることに気付いた。
- 地域の方々の地御前を大切にしたいという思いを知ることができた。
- グループ活動にすることで、自分が知らなかったことに気付いたり、お互いの意見を尊重し合ったりして取り組む姿が見られた。
- ◇自分たちが地域の方々の思いを受け継ぎ、後世に伝えていかなければならないという思いをもった。

単元名

安心してらせるまちづくり ～佐方の町の親切プロジェクト～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎様々な人々にとって、安心してらせる町とはどのような町か？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●様々な人がどのようなことに困っているのか？自分にできることは何か？

【単元の目標】
佐方の町に住んでいる人々の困難さについて体験活動を通して学び、自分にできることについて考え、実行する態度を育てる。

【連携諸機関・人物】
・廿日市市社会福祉協議会
・阿品台手話サークル
・飛来行車いす体験
・椿会賛助会
（アイマスク体験）
・広島ハーネスの会
清水和行さん
盲導犬ファイン

活動の概要

校内における福祉施設の見学や手話・車いす・アイマスク体験、盲導犬の仕事や日常生活について保護者とともに知ることにより、様々な人々にとっての困難さに気づき、自分たちにできることについて考え、下学年に伝える活動を行う。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜手話体験・車いす体験・アイマスク体験 PTC 活動、盲導犬についてのお話＞

- ・廿日市市社会福祉協議会の協力により、手話・車いす・アイマスク体験を PTC 活動で行うことにより、保護者とともに福祉についての興味・関心を深めた。
- ・盲導犬の仕事や盲導犬との生活についての話を聞くことにより、盲導犬についての興味関心を引き出し、盲導犬とのかかわり方について学ぶことができた。
- ・社会福祉協議会の支援金でパラリンピックの競技であるゴールボールを購入し、体育の授業で体験活動を行った。
- ・自分たちが学んだことを国語科の新聞づくりと関連し、第2学年の児童へ伝える活動を行った。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

○様々な体験活動を PTC 活動で行うことや盲導犬についての話を聞くことにより、障害についての理解や自分にできることに気付くことができた。また、保護者の福祉に対する興味関心を引き出すことができた。

◇福祉について調べることで、いろいろな障害があることに気付くことができた。車いすを動かす時、段差や曲がる時が大変だった。障害のある人の大変さが分かったのでこれから手助けをしていきたい。

単元名

安全・安心なまちづくり
～佐方っ子防災大作戦～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎人々が住みやすい安全・安心なまちづくりとはどんな町か？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●安心・安全に暮らすために防災について自分たちにできることは何か？

【単元の目標】
地域の災害や公共の備えについて知り、安心・安全に暮らすためにどのような備えを行えばよいか自分たちにできることを考え、実行する態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・広島県危機管理監
みんなで減災推進課
ひろしま防災出前講座
- ・廿日市市危機管理課
防災備蓄品提供

活動の概要

「ひろしま防災出前講座」や社会科の学習やその他の資料による情報収集を通して地域の災害や減災についての取組について知り、知りえた情報を国語科との関連し整理・分析を通して新聞づくりを行い、参観授業において保護者への情報発信を行う。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜ひろしま防災出前講座＞



＜授業参観での情報発信＞



- ・「ひろしま防災出前講座」により、地域の災害や自助である防災バックの内容についてカード学習を通して学び、防災についての興味・関心を引き出すことができた。
- ・廿日市市危機管理課の協力により、備蓄品の貸し出しや保存食等実物に触れることにより、公助の実際について理解することができた。
- ・自分たちにできることについて考え、国語科の学習を生かし情報を整理し、新聞や実物を提示しながら授業参観で保護者への情報発信を行うことができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 防災学習を通して、様々な災害への備えが大切なことに気づき、家庭での防災グッズを準備することができた。
- 新聞づくりでは、国語科と関連させることにより、見出しや割付を工夫し、写真や図・表等を効果的に用いることや読み手に分かりやすく文章で説明することができた。
- ◇テーマを決めて調べ学習を行い、大雨による被害や備えについて分かったので、これからも詳しく調べていきたい。

単元名

お米大好き大作戦

～探ろうお米の魅力～
～伝えようお米の魅力～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎日本の主食であるお米の魅力についてどのように伝えたらよいのか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●お米の魅力を伝えるために自分たちにできることは何か？

【単元の目標】

日本の主食である米が生活や文化と密接な関係にあることに気付き、専門家の講義や米作りの体験、資料や ICT を活用した情報収集を行い、自ら学んだ米の魅力について、他学年児童や地域の方に発信する学習を通して、課題を追究し、自分にできることを考え、相手や目的に応じて実践していこうとする。

【連携諸機関・人物】

- ・ 廿日市市役所
農林水産課農業振興係
先矢和重様
- ・ 廿日市市役所佐伯支所
環境産業グループ
農業指導員 中尾道則様
地域支援員 中山理公様
- ・ JA 佐伯中央
廿日市経済センター
営農指導員 山田輝明様

活動の概要

これまで地域の方による米作りの指導を受けていたが高齢のため困難であり、今年度は、廿日市市役所・JA 佐伯中央のゲストティーチャーによる米作り指導（田植え・稲刈り・脱穀）や米作りについての講習を受けた。体験活動や ICT を活用した情報収集を通して、日本の主食である米について生活や文化と密接な関係にあることや社会科との関連より食料生産における課題を知ることにより、米の魅力を伝えるために自分にできることを考え、相手や目的に応じて多様な表現方法を活用し、伝える活動「米まつり」を行った。

★アピールポイント★

- ・ 活動の特色 ・ 授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・ 地域人材、財産等の活用
- ・ 児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・ 他教科等との関連 ・ ICT の効果的な活用 等



<米作り体験>

<お米講座>

<米まつり>

- ・ 廿日市市農林水産課農業指導員・地域支援員、JA 佐伯中央の職員等専門家による米作り体験や「お米講座」により、実生活における米作りや収穫量の測定の実際について学ぶことができた。
- ・ 昔の道具や最新の道具の比較や稲の活用等について学ぶことにより、米と密接にかかわってきた日本の文化について学ぶことができた。
- ・ 「お米まつり」では、休憩時間を活用し、他学年の児童やお世話になった地域の方へスライド、劇、歌、おみくじ、わら細工等、多様な表現方法を活用して情報発信することができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 専門家による米作りの指導を受けることで、米作りの実際や米作りの課題について体験を通して行うことで、興味・関心を引き出すことができ、実践へとつなげることができた。
- 「お米まつり」を通して、目的意識・相手意識をもった多様な表現方法を活用することができた。
- ◇脱穀の体験の時、精米機にとれたお米を入れた時、初めて見るお米に驚きました。
- ◇1年間お米と向き合うことでお米のよさや米農家さんの苦労について知り、意識が変わりました。お米の収穫量の測り方やお米が一粒から多くのお米になることを知りました。

佐方小学校

【教科】総合的な学習の時間

【学年】第6学年

【育成を目指す資質・能力】思考力・判断力・表現力等

単元名

SAGATA TREASURE

～ふるさと佐方小学校校区のために
自分たちにできること～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎地域の魅力をどのように伝えれば好きになってもらえるか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●地域の魅力を伝えるために自分たちにできることは何か？

【連携諸機関・人物】

- ・佐方アイラブ自治会
- ・佐方市民センター
- ・廿日市市役所
プロモーション戦略課
- ・ジブノオト
- 大野 圭司様
- ・中国四国博報堂
- 河上 陽子様

【単元の目標】

自分たちが住んでいる地域がどんな地域か探究し、その魅力をより多くの人に効果的に発信するためにはどのような方法がよいか考え、実践しようとする態度を育てる。

活動の概要

導入時に地域の方から「地域と一緒に盛り上げてほしい」という依頼をしていただき、自分たちの住む地域についての情報収集を行い、地域の魅力を多くの人に伝えるための課題を設定した。自分たちにできることについてのアピール動画を作成し、地域の方や関係機関に視聴してもらい、コメントをしていただいた。その後、実現可能かどうかについて検討を行い、校内でのイベント（歴史紙芝居・クイズラリー・廃材を利用したゲーム）の実施や地域の魅力満載のカレンダー・パンフレット等を関係機関へ配布する等、地域の魅力を校内・地域へと効果的に発信した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICTの効果的な活用 等



〈地域の魅力再発見〉 〈紙芝居〉 〈校内クイズラリー〉 〈地域へ還元〉

- ・導入段階で、地域の方から「地域と一緒に盛り上げてほしい」という依頼を受ける形で学習を出発させたことで、児童の関心・意欲が高まった。
- ・国語科「町の幸福論」の学習を発展させ、考えたことを実行していこうというゴールを設定したことで、最後まで主体的に取り組む姿が見られた。
- ・グループごとに自分たちにできることを動画にまとめ、その動画を地域や市役所、企業の方に見て頂き、感想やアドバイスをもらった。それらを生かして、具体的な活動を考えていくことができた。
- ・校内でイベントを開催したり、カレンダーやパンフレットを地域の方に配ったり、お店や施設に置いてもらったりして、多くの人に見てもらうことができた。



児童生徒の姿（○）、振り返り（◇）

- 意外と知らなかった地域の魅力を楽しみながら再発見していく姿が見られた。
- 自分たちが地域の行事に積極的に参加することが、地域を盛り上げることに繋がるということに気付いた。
- ◇地域の魅力を多くの人に伝えたいと活動してきたが、地域のことを一番好きになったのは、自分たちだと思ふ。
- ◇これからはもっと地域の行事やイベントに参加したいと思つた。

単
元
名

「ずっと住みたい阿品台に」 ～私たちにできること～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎住みたい町にするには、どうすればよいのだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●みんなが住みたくなる町とは、どんな町なのだろうか？

【単元の目標】

自分たちが生活する町の現状を知り、みんなが住みたい町にするために、課題と改善策について考え、実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・地域住民
（阿東っ子応援団）
- ・保護者
- ・在校生児童

活動の概要

地域の公園や歴史、交通等について児童や保護者、地域住民等へのインタビューを通して、課題『ずっと住みたい阿品台にするにはどうしたらよいか？』を設定した。児童や地域住民へのアンケートの集計を通して、課題を見出し、自分たちが今後できることについて考えた。グループごとに意見交流をしながらスライドを作成し、保護者へ発信した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜スライド作成の様子＞



＜発表の様子①＞



＜発表の様子②＞

- ・実際に公園に調査に行ったり、インタビューをしたりする活動を設定し、児童から疑問を引き出すことで、身近な地域へ興味を広げることができた。
- ・スライドを作成する際、スライドの共有機能を活用し、効率よく役割を分担し、スライドを作成した。発表もクラスルームにスライドのリンクを貼り付け、電子黒板で行った。
- ・児童が主体的に活動できるように、興味・関心のあるグループを自分たちで決定する学習形態をとった。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- アンケートをフォームで作成し、児童や職員等へのアンケート集計を行うことができた。
- 身近な公園や地域を見直すことで、何気なく住んでいる地域にも課題がたくさんあることに気付くことができた。
- ◇地域住民にアンケートを行うことで、どんな気持ちで清掃をされているのかを知り、改めて地域に愛着を持つことができた。
- ◇地域の活動を知ること、たくさんの方々の協力により、地域のよさが保たれていることを知った。

単元名

阿品のすてき



【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎ふるさと地域の素敵って何だろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●阿品のすてきなところって何だろうか？

【単元の目標】自分たちの住む阿品地域のすてきな場所を発見し、

それを保護者や地域の方に発信する活動を通して、地域に親しみを持ち地域に関わろうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・市役所（プロモーション戦略課）
- ・阿品の森サポータークラブ

活動の概要

地域を探索して発見した阿品の素敵な場所を学習発表会で保護者に発信する活動をした。
干潟観察&潮干狩りをしたり、西国街道縁の教え地蔵や神社巡りをしたり、阿品の森で散策をしたりした。また、阿品の森で収集してきた物を使って、ドングリ独楽や松ぼっくりツリー・紅葉しおり等を作るなど地域の自然に触れ合う活動をした。

阿品のおすすめの場所をリーフレットにまとめたり、阿品の森について新聞にまとめたりした。そして、阿品のすてきな場所・すてきな人を学習発表会の場で、劇やダンス、呼びかけという形で表現した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICTの効果的な活用 等



＜干潟観察（潮干狩り）＞



＜教え地蔵の調べ学習＞



＜阿品の森散策＞

- ・市役所のプロモーション戦略課の方から、廿日市を活性化する話をしてもらい、自分たちの地域の魅力を見つけ発信しようとするモチベーションを高めた。
- ・阿品の森サポータークラブの方から、阿品の森を守る活動の意義や森に入る時の心得などを話してもらい学習すると共に地域を支えている人々の存在を認識できるようにした。
- ・阿品の森の木の実や落ち葉を使って図画工作科の「マイコレクション」を作成した。
- ・国語科「案内の手紙を書こう」の学習で、保護者へ阿品のすてき発表会の招待状を書いた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 体験学習や調べ学習をする中で、阿品の素敵なところをもっと見つけたいと意欲を高めた。
- ケーキ屋さんやパン屋さんインタビューをして疑問を解決するなど地域の人と積極的に関わろうとする姿が見られた。
- ◇阿品の森の魅力は、ビオトープや登山コースがあって、ドングリ拾いや栗拾いができるところ。空気がきれいで、山頂からの景色は宮島が見えて最高。次は家族と行きたい。
- ◇阿品の森サポータークラブの方がアオギリ2世を育てられている。そのアオギリ2世が阿品の森で戦争の恐ろしさを伝えていると思う。戦争は絶対にしてはいけないと思った。

単元名

串戸の福祉 ～串戸のまちづくりをしよう！～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎自分は、ふるさとにどう関わっていくか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●福祉って何だろう？

【単元の目標】

自分たちが住んでいる串戸の福祉について、体験活動やインタビューを通して知り、みんなが住みやすい町になるために自分ができることを考え、実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・ 廿日市市社会福祉協議会
- ・ 阿品台手話サークル
- ・ 点訳クラブあい
- ・ ボランティア G 飛来行
- ・ くさのみ作業所
- ・ アマノ 居宅介護支援事業所

活動の概要

「福祉って何だろう？」という問いかけから、自分たちが住む場所には、どのような人がいて、どのように生活しているのかについて調べていく中で、「みんなが住みやすい串戸のまちづくりをしよう！」という課題を設定した。手話、点字、車いす体験や認知症サポーター体験を通して、体の不自由な人達がどのようなことに困るかを考えた。考えたことを生かして、子ども達一人一人が自分の通学路を通して体の不自由な人達たちにとって危険な場所を調べ、改善方法について話し合った。

★アピールポイント★

- ・ 活動の特色 ・ 授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・ 地域人材、財産等の活用
- ・ 児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・ 他教科等との関連 ・ ICTの効果的な活用 等



〈手話教室〉



〈点字教室〉



〈車椅子体験〉



〈認知症サポーター体験〉

- ・ 廿日市市の団体にお申し、4種類の体験活動を行った。様々な体験活動を仕組むことによって、当事者の困り感に児童が気付くことができた。
- ・ 自分の通学路を実際に歩き、体の不自由な人の立場に立って考え、どのようなところで困るか、危険かを考えることを通して、自分たちの町を全ての人にとって暮らしやすい町にしていこうという意欲を高めることができた。
- ・ chromebook のジャムボードを使って、車いすの利用者、目の不自由な人、耳が聞こえない人にとって、串戸の町の問題点や良い点についてまとめ、交流した。意見を交流する中でもっとこうしたら良いのではないかと、児童自らの改善点も話し合うことができた。
- ・ 実際に自分の通学路を歩く活動を通して、「これからは自分達で串戸の町を作っていきたい。」「体が不自由な人にも元気な人にもどんな人にも優しく対応してあげることが大切だ。」など、自分の生活と学んだことを結び付けて考える児童が増えた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 自分の通学路を実際に歩いて、町の問題点について考えることで自分たちの町を全ての人にとって暮らしやすい町にしていこうという「まちづくり」の視点をもつことができた。
また、自分の生活と学んだことを結び付けて考え、自分ができることをやっていこうという意欲をもつことができた。
- 様々な体験活動を仕組んだことで、目の不自由な人や車いすを利用している人などに会った時にどうすればよいかを一人一人が考え、実行しようという意欲をもつことができた。

単元名

ぼくらのビオトープ パート2

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎宮園ビオトープを持続可能にするために、自分たちにできることは？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●ホタルが飛ぶビオトープにするためには？

【単元の目標】

- ・ホタルについて調べたり、ホタルが宮園ビオトープに生息する理由を考えたりすることを通して、地域の自然環境についての理解を深める。
- ・ビオトープに関わる地域の人々の思いや願いを知ることを通して、ふるさとへの愛着を深める。

【連携諸機関・人物】

- ・ビオトープの会
- ・宮園市民センター

活動の概要

- ①ビオトープの会の方々の思いや願いから自分なりの問いをもち、インタビューしたり、本やインターネットで調べたりして、情報を集める。
- ②調べたいことについて情報を収集したり、必要な情報が取捨選択したりして整理した上で、『地域の人の願い』からの自分自身の意見や考えをまとめる。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- ・課題設定の場面で、ホタルについての動画を視聴したことにより、活動への意欲や興味関心を高めることができる。
- ・宮園ビオトープの会の活動を知ることを通して、人間の活動が自然環境に与える影響について多面的に考えることができる。また、社会科の学習と関連付けたり、身近な生活とつないだりしながら探究のサイクルを回すことができる。
- ・豊かなビオトープを育てるという目的のもと、専門家のアドバイスを受けながら、友達と協働的に活動に取り組むことができる。
- ・ロイロノートを活用して毎時間の振り返りの記録を蓄積し、共有できるようにすることで、様々な視点からの気づきが促され、もっと調べてみたいという探究への意欲の向上につなぐことができる。



児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- グループで調べたりまとめたりする過程で、友達や地域の方々と主体的に関わる姿が見られた。
- 身近な自然に改めて目を向けることで、宮園の自然のよさや自然を守ることの大切さや難しさに気づくことができた。
- インターネットや図書、体験活動など、様々な方法で情報収集することにより情報の取捨選択の必要性が生まれ、自己決定場面を繰り返し経験できた。
- ◇来年も宮園ビオトープにホタルが飛ぶといいなあと思いました。
- ◇自分たちが調べたり聞いたりして分かったことを他の学年にも知ってもらえて嬉しかったです。
- ◇ゲンジボタルとヘイケボタルの違いがわかりました。ホタルがいるビオトープにするために、ホタルを放流するなど人間がコントロールすることはよくないことがわかりました。
- ◇ホタルの季節には家族と一緒にビオトープに行きたいと思いました。ぼくは、宮園ビオトープが前よりももっともっとすきになりました。

単元名

四季が丘未来づくりプロジェクト ～四季が丘の未来は自分たちの手に～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎ 10年後、私達はどんな社会に住みたいだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

● 四季が丘の未来を住みよくするために自分達でできることは何だろう。

【単元の目標】

社会問題と SDGs「17の目標」とのつながりに触れ、環境問題や人権問題等の背景にある原因について調べる活動を通して、自ら課題を設定したり、課題解決に必要な情報を集めたりしながら、未来を創る担い手として自分に何ができるか積極的に考え、実践につなげようとする事ができる。

【連携諸機関・人物】

- ・ 四季が丘市民センター
- ・ 四季つ子応援団
- ・ 学校運営協議会委員
- ・ 廿日市市議会議員（四季が丘）

活動の概要

1学期の総合的な学習の時間で行った SDGs の学習や国語科「町の未来をえがこう」の学習を通して、「四季が丘の未来を住みよくするために自分達で出来ることは何だろう」と課題設定した。四季が丘の現状や課題について情報収集し、その結果を整理・分析し、四季が丘をより良くする提案をチームごとに行った。学級全体で複数の提案について吟味し、各学級1つの提案にしぼり、地域貢献に向けての実践を行った。

★アピールポイント★

- ・ 活動の特色 ・ 授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・ 地域人材、財産等の活用
- ・ 児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・ 他教科等との関連 ・ ICTの効果的な活用 等

- ・ 課題設定では、1学期の SDGs の学習で取り組んだことを振り返ったり、国語科「町の未来をえがこう」の学習と関連付けたりすることで児童が学習の目的を明確にすることができた。
- ・ 四季が丘の現状や問題点を探るために、自分達の経験等と関連付けながらアンケートを作成し、各家庭に実施のお願いをして回ったため、より詳細な課題を知ることができた。



【調査】



【提案】



【実践】

- ・ 提案を発表する際には、スライドにアンケート結果を図にまとめて問題点を明確にし、そこから考えられる改善点や取り組むべき内容をまとめた。また、内容については、説得力をもたせるために、メリット・デメリットについても考え解決の手立てについて等、構成を考えてまとめた。
- ・ 地域の方に児童の考えている提案を聞いて頂き、具体的なアドバイスを頂くことで、自己有用感を高めることができた。
- ・ 取組内容を決定する際には、「問題点を解決するものであるか。」「継続して行うことができるか。」という2つの視点を明確にし、比較・検討することができた。
- ・ 各学級で選ばれた取組は、地域の方にも参加して頂き、先の視点を解決しているかについて講評を頂いたため、今後に向けての活動の方向性が理解でき、振り返りが深まった。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

○自分達の地域をよりよくしていくという課題を設定したため、すべての児童が当事者意識をもって取り組むことができた。また、活動中に新たな課題に気が付き、児童自らが課題を設定し実現に向けて見通しをもって活動することができたことで、自己有用感を高めることができた。

◇児童の振り返りには、「地域の問題点である世代を超えて楽しめる行事の少なさを解決する取組ができ、今後も引き継いでいきたい」と達成感や地域の未来に願いをもつものや、交流を通して学んだことを広げるために自分達でできる地域貢献を考え、積極的に地域の人達に発信していこうと意欲をもつものなどの記述が多く見られた。

単元名

ふるさととのつながいを深めよう
～みんなで調べよう！ふるさと調査隊～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎友和・玖島地域とはどのような地域だろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●友和・玖島地域で自分たちにできることは何なのだろうか。

【単元の目標】

身近な地域のよさや特徴，変化を知る中で，友和・玖島地域の課題を設定し，それらを解決していくためにできることを考え，実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

・廿日市市佐伯公衆衛生推進協議会
・友和地区公衆衛生推進協議会
・廿日市市役所地域振興課

活動の概要

1学期には「玖島川には，どのようなよさがあるのだろうか」という課題を，2学期には「友和・玖島地域では過去にどのような災害が起こったのだろうか」という課題を設定した。「水辺の教室」を通して，玖島川で採集した水中生物がどのような水質で生きられるのか調査したり，廿日市市役所の方から災害が起こった時の正しい行動の仕方を教わったりした。

★アピールポイント★

・地域人材の活用 ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用



＜水辺の教室＞



＜防災教室＞



＜国語科との関連＞

- ・玖島川に行き，地域の方々と一緒に川の生物を捕まえ，種類ごとに分けて観察した。その後，玖島川の生物と，川の生物が生活できる水質についての資料を比較することを通して，玖島川の水質のよさに気付くことができた。
- ・国語科「調べたことをほうこくしよう」と合科的に学習を行い，3年生が防災について知らないことは何か Google Forms でアンケートをした。また，アンケート結果や友和・玖島地域でよりよく生きるために伝えたいことをスライドでまとめ，3年生に報告した。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 玖島川には，きれいな水でしか生活することができないヒラタカゲロウやヘビトンボ等が数多く住んでいると気付くことができた。
- 友和・玖島地域は，土砂災害が発生しやすいということに付き，家族が土砂災害に巻き込まれる危険性がある場合，どこに避難すればよいのか一人一人が確認することができた。
- ◇玖島川には，きれいな水でしか生活できない生き物が多く住んでいると分かったので，水を大切にしていきたい。
- ◇友和・玖島地域は土砂災害が起こりやすいので，日ごろから防災バッグを用意したり，ローリングストックをしたりして，万が一の場合に備えたい。

単元名

「津田の歴史をたずねよう」 ～津和野街道・十王堂～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎津田の歴史を知ってもらうためには、どうすればよいだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●津田の町には、どんな歴史があるのだろうか？

【単元の目標】

地域の歴史に関心を持ち、郷土への愛着を持ちながら、よりよく課題を解決し、自分の考えをまとめ伝える資質や能力を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・山里くらぶ
- ・さいき文化センター

活動の概要

400 年以上前の史跡である「津和野街道」が地域にあることを知り、パンフレットやインターネット等から情報収集を行った。その後、「山里くらぶ」に所属する地域の方々のお力を借りながら実際に津和野街道を散策し更なる情報収集や理解を深め、その成果をパンフレットやリーフレット、DVD映像等にまとめ、さいき文化センターを媒介として地域へ発信を行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



<津和野街道散策>

<津和野街道 PR 動画上映(文化センター)>

<津和野街道リーフレット等提示(文化センター)>

- ・今年度は「実体験を伴う教育活動」と「地域への発信」を特に意識し教育活動を推進した。
- ・6月に実施した津和野街道散策では、山里くらぶの皆さんから学ぶことも多かった。児童の学習意欲も高まり、より主体的な教育活動につながった。
- ・さいき文化センターのロビーにて児童たちの作成した PR 動画を上映していただいたり、リーフレットやパンフレットもロビーを中心に置いていただいたりするなど、地域への発信を行うことができ、校外の方からも高い評価をいただいた。同センターで2月中旬に開催された「津和野街道百絵図展」にも児童の作品を出品する等、活動の幅が広がった。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- それぞれ津和野街道の担当スポットを決めたことで一つについて深く学んだり、グループでまとめる際に責任感を持って活動できたりするよさがあった。
- 自分たちが作成したパンフレットや DVD 映像、絵画等が学校外の多くの方の目に触れ、高い評価を受けたことは大きな自信につながっていたようだった。
- ◇歴史ある史跡が自分たちの住む地域に残っていることを知り、大切に残し続けたいという気持ちをもつことができたようだった。

単元名

吉和の宝を見つけ、発信しよう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎10年後、吉和がどんな地域になればよいだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●吉和の宝は何だろうか。

【単元の目標】
・吉和地域の宝（魅力）について理解を深め、その魅力を他者に分かりやすく伝える方法を考え、発信することを通して、地域の一員として地域の活動に取り組もうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】
・地域の方
（深瀬さん 山崎さん
益本さん 栗田さん）
・茨城県坂東市立内野山
小学校

活動の概要

・児童の考える吉和の魅力について3つのグループ（自然 文化・人 特産品）に分類し、それぞれのグループでインタビュー活動や調べ活動を行い、伝えたいことをスライドにまとめ、同じ複式学級で学習している茨城県坂東市立内野山小学校とオンラインで交流を行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



<インタビュー>

<スライド作成>

<オンライン交流>

- ・吉和地域のことをよく知っている方（深瀬さん 山崎さん）へのインタビューを通して、主体的に地域のことについて学ぶことができたようにした。
- ・グループは3～6年の縦割りで構成し、高学年が3・4年生にスライドの作成方法や発表の仕方を教え合える学習形態の設定をした。
- ・同じ複式学級で学んでいる茨城県坂東市立内野山小学校との交流をゴールとして設定することで、目的意識・相手意識をもった学習となるようにした。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 地域の方へのインタビューを通して、吉和地域のよさについて再確認することができた。
- 県外の小学校へ地域のよさを紹介するという目的意識があったため、発表の仕方やスライドの伝わりやすさなどを工夫する姿が見られた。また、相手の発表も児童にとって興味深いものであったため、意欲的に交流に臨んでいた。
- ◇吉和の宝についてほかの県の小学校に紹介できてよかった。これからも吉和で行われる行事に積極的に参加していきたい。

単元名

がっこうだいすき ・ なつがやってきた いきものとなかよし ・ たのしいあきいっぱい

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎ 私たちは、どのようにして生きているのだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

- 身の周りにいる人々はどのようにして、私たちを支えてくれているのだろうか。
- 私たちの周りでは、どのような生き物が、どうやって生きているのだろうか。

【単元の目標】

- 学校生活を支えている人々を知り、楽しく安心して生活できるようにする。
- 身近な動植物を探し、それらの育つ場所や変化の様子に関心をもって働きかけることができるようにする。

【連携諸機関・人物】

- ・ 学校周辺にお住いの地域の方々
- ・ 学校の近くにお住いの農家の方

活動の概要

- 年間を通して、学校近くの農家の方が所有する田に見学に行き、稲の成長や稲刈り後の生き物の様子を観察する。
春：農家の方と知り合い、田植えの見学をする。また、田まで移動する中で、地域の方々と出会う。
夏：稲の成長を観察する。きれいな水を守るために農薬を使わない農業を目指す農家の方の話を聞く。
秋：稲穂の様子を観察する。収穫と乾燥の様子を見て、農業の大変さと大切さを知る。

★アピールポイント★

- ・ 活動の特色 ・ 授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・ 地域人材、財産等の活用
- ・ 児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・ 他教科等との関連 ・ ICTの効果的な活用 等



＜田にて、農家の方と＞



＜耕作前の田のレンゲ＞



＜捕まえたカエル＞

- ・ 多くの地域の方々や様々な職業の方々が自分たちの学校生活を支え、見守ってくださっていることに、実感を伴って学ぶことができる。
- ・ 年間を通して同じ場所の生物を観察することで、その多様性や変化に気付くことができる。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 田んぼに自生しているレンゲが、耕作を経てそのまま肥料になることに驚いていた。
- カエルなどの小さな生き物に恐怖心をもっていた児童も、見学した田で捕まえたカエルには進んで触ろうとしていた。
- 田の見学に行く途中に出会った方が、毎週行われる読み聞かせに来てくださり、喜んでいました。
- ◇ 1本の稲から、こんなにたくさんのお米がとれると知って、びっくりしました。
- ◇ 学校の近くにもたくさんの生き物がいて、もっと探してみたいくなりました。

単元名

みんなでつかう まちのしせつ

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】◎ 身の回りの自然・人々・施設は、自分たちの生活の豊かさとうつながつているのだろうか？

【単元を貫く問い】● まちには、どんな施設があり、自分たちの生活とうつながつているのだろうか？

【単元の目標】○ 公共施設の見学を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたり、それらを支えている人々がいることに気付く。また、公共施設やそこで働いたり活用したりしている人々を大切に思うことができるようにする。

【連携諸機関・人物】

- ・ 大野学校給食センター
- ・ 2区にお住いの広田さん
- ・ 3区区長さん
- ・ 3区集会所
- ・ 3区集会所で活動されている銭太鼓のみなさん

活動の概要

1. 自分たちの生活に関係する公共施設は、どこにどんなものがあるか調べる。
2. 集会所について教えてもらう。
3. 施設（給食センター、3区集会所）に見学に行く。
4. 見学して分かったことをまとめ、伝え合う。
5. 学習を振り返る。

★アピールポイント★

- ・ 活動の特色 ・ 授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・ 地域人材、財産等の活用
- ・ 児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・ 他教科等との関連 ・ ICTの効果的な活用 等



＜調理の様子を見学＞



＜給食クイズ＞



＜3区集会所（銭太鼓）＞

・ どこにどんな施設があるのかを校区地図に示すことで、身近な場所にたくさんの施設があり、生活を支えていることに気付かせることができた。

・ コロナや市民センターの建て替え工事により、思い通りの見学の実施が難しかったが、地域に住む人に、集会所について話をしてもらい、それを Meet で各クラスが視聴した。参加したことのある「お化け屋敷」や廃品回収の話を交えながら説明してもらえたので、理解が深まった。また、集会所などの公共施設が自分たちとつながりがあると感じることもできた。

・ 学校のある3区の方々に協力を仰ぎ、集会所を見せてもらい、実際に活動されているグループの方々と交流する機会を設けたことで、地域の人々の思いや優しさに触れ、このまちのよさを感じることができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

○身の回りには、たくさんの公共施設があり自分たちの生活と関りが深いことに気付くことができた。また、そこで働く人も活用している人も、まちをよりよくしようとしていることに気付くことができた。

○色々な人に支えられていることに気付く、感謝の思いをもつことができた。

◇集会所は、まちのみんなが楽しく過ごすために使われていると分かった。

◇コロナが収まったら、宿泊通学をしてみたい。お化け屋敷をまたやって欲しい。

◇給食センターでは、働いている人が38人しかなくて驚いた。これからも残さず食べたい。

単元名

単元名 大野のすてきを見つけよう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎ よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく資質・能力を育成するためには、どんな学び方を身に付けるとよいのだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

● ふるさと大野について知り、大野を知らない人に特徴やよさを伝えるためには、何をどのように調べ、発表していくとよいのだろうか。

【単元の目標】

学習の目的と方法を知ることにより、これからの学習に見通しをもち学習への意欲を高める。

相手意識・目的意識をもち、主体的に課題を発見し解決する力を育てる。

【連携諸機関・人物】

・三次市立神杉小学校

活動の概要

「大野のすてき」を調べレポートに書いたもの（6月下旬）を、三次市神杉小学校の校長先生に読んでもらう。「三次にはない、大野にしかないものをもっと知りたい」との依頼（7月）を受け、それは何かと考え追加の調査を実施したのち、発表映像を作成しリモートで発表（9月）した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



ICT 機器を使って発表を録画。「目線がこっちに向いていない」「もっとゆっくり言おう」と、映像を見返しながら修正点を話し合い、自ら練習を重ねていた。



リモート会議により、遠隔地の人とつながることができただけでなく、一同に会す機会がない中、他クラスとの発表交流もできた。

- ・「大野にしかない」もの・ことを三次市の神杉小学校の校長先生に知らせる場の設定をし、相手意識・目的意識の明確にしたことで何を知らせるべきかを主体的に考え、課題を焦点化することができた。（ふるさと「大野」をより意識づけた。）
- ・リモートで映像による発表、各クラス5分間、1グループ1分程度という条件を提示し、発表をどのように作るか主体的に考えさせた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 相手意識・目的意識が明確になり、レポートに書いた内容を振り返る契機となった。何を知らせるべきかを主体的に考え、課題を焦点化することができていた。
- 発表する時間などの条件や相手に分かりやすく伝わるかどうかを考えたことで、発表内容を精選、工夫することへつながった。また発表練習をICT機器で録画して行うことで客観的に発表を振り返り、主体的に改善していた。
- ◇ みんなのアイデアを全部まとめました。1学期より、工夫することやせつ明の仕方、協力する力などがよくなったり、変わったりしました。

単元名

「大野の今を見直そう！」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
 ◎地域のよさに気づき、地域に愛着がもてるようにするにはどうすればよいか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
 ●大野の町の魅力は何だろう。

【単元の目標】

大野にある様々な神社や史跡について知ることを通して、大野の歴史・自然・文化を大切に、今まで継承してきている人々の努力や苦労や願いに触れ、これからの自分の生き方について考える学習をする。

【連携諸機関・人物】
 ・大野歴史ガイドの会

活動の概要

社会科の歴史の学習をふまえて、今の大野の魅力について話し合い、課題「大野の魅力を見つけよう～大野の史跡巡り～」を設定した。大野歴史ガイドの会の案内で西国街道に沿って遺跡や史跡を探検したり、生活道として使われていた中山峠を歩いたりした。大野の歴史的価値やすばらしさ、先人の苦労や努力を知り、それを広く伝えようと新聞にまとめた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

<今川貞世歌碑>



歴史で学習した「足利義満」の命令に従った史実を知り驚くと同時に感動していた。

<蓮華寺>



戦時中、イギリスに渡っていた鐘だったが、内側に地名と寺の名前が刻まれており、戻ってきた。

- 地域の歴史ガイドの会と連携し、学級ごとにガイドさんと一緒に史跡を歩いて回りながら、それぞれの史跡で詳しく説明をしていただいた。
- 社会科の歴史学習における理解を深めることができた。
- 道徳「天下の名城をよみがえらせる」という資料において歴史的建造物を大切に、文化を継承することの苦労を学んだ。史跡を大切にしたり文化を継承したりしていくことの意義を考えさせた。
- 調べた事を、ICT 機器を用いて、まとめた。見たり聞いたりして分かったことだけでなく、大野の歴史を知ることを通して感じたことや考えたことも書き、交流し合った。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 大野には、こんなにも沢山の史跡や遺跡があることに驚き、誇りを感じていた。
- 本校の前身である蓮華寺の鐘が、第2次世界大戦後に外国で見つかったことに驚き、社会科の戦時中の生活の様子についての学習で聞いた話が身近でも起こっており、より地域の歴史について深く興味をもつことができた。
- ◇大野の史跡巡りに行って、京都から九州まで続く西国街道や、イギリスまで行った鐘など、身近なものが日本中や世界と関係していて驚きました。
- ◇歴史ガイドの会の皆さんが、頑張って大野の歴史を残すために努力してきたので、他の人に紹介したいです。

単元名

「大野のステキを見つけよう」 ～大野の昔～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎大野のステキって何だろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●昔から大野にあるステキって何だろう。

【単元の目標】

大野の昔を知り、その移り変わりを調べることを通して、自分達の生活とのつながりを考え、地域を支えてきた先人の努力や工夫に気付く、これらを大切にしようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】
・大野歴史ガイドの会

活動の概要

児童は、1年間を通して、自分の住んでいる「大野のステキ」を様々な視点から見つけた。2学期は、昔のくらしや道具について調べたり、実際に民具庫に行って体験したり、地域の人の話を聞いたりすることを通して大野の良さを見つけた。活動を通して見つけた大野のステキを新聞やスライドなどにまとめた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜洗濯板の使い方見学＞



＜石臼体験＞



＜脱穀機体験＞

- ・導入段階で、昔の人のくらしを想像させることによって、関心を高めた。
- ・「大野歴史ガイドの会」の方と連携し、学級ごとに昔の道具の詳しい説明をしていただき、体験をさせていただいた。
- ・体験を通して、もっと知りたいことを図書やインターネットなどを使って調べさせた。
- ・活動を通して分かったことを、新聞やスライドなど方法を選んでまとめさせた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 昔と今の暮らしの違いを感じながら興味をもって学習していた。
- 図書やインターネット、体験活動など様々な方法での情報収集により、知りたいことについて理解を深めることができた。
- 自分の伝えたい内容や方法を選んでまとめることができた。
- ◇自分達も、守られてきた道具を大切にし、伝えていきたいと思った。
- ◇大野の良いところがたくさんあることが分かったので、2年生に教えてあげたいと思った。

単元名

宮島の昔のくらしのよさを伝えよう
～もっと知りたい宮島～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎生活の豊かさとは何だろう。

【連携諸機関・人物】

・宮島歴史民俗資料館
・地域の方

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●昔のくらしのよさとは何だろう。

【単元の目標】

家族や地域の大人から昔の様子を聞き取ったり、昔のくらしを体験したりする活動を通して、昔のくらしや人々の思いに気付き、持続可能な視点で今のくらしと比較して考え、昔のくらしのよさを伝え、自分の生活や行動に生かすことができるようにする。

活動の概要

宮島の昔のくらしのよさを伝えるために、歴史民俗資料館に話を聞きに行ったり、昔のくらしを知るゲストティーチャーを招いて話を聞いたりして情報を集めた。集めた情報を整理・分類し、次の探究課題をグループごとに見つけ、それぞれの観点（遊び・暮らし・行事・学校）で昔のくらしのよさを見出し、発表会で伝えた。

★アピールポイント★

地域人材、財産等の活用・ICTの効果的な活用



<インタビュー>



<話し合い>



<発表の様子>

- ・グループごとにジャムボードを用いて情報を整理・分類することで、全員が参加し、活発な話し合いになった。
- ・振り返りをタブレット端末に蓄積し見返すことで、自分や友達の成長に気付くことができた。
- ・見学では昔と今のくらしの相違点に気付くだけだったが、地域の方の当時のくらしぶりや想いを聞くことで昔のくらしのよさに気付き、考えを深めることができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 児童は「こういう理由で、次はこんな活動をしたい」と、主体的に活動に取り組んだ。
- 地域の方々と話す中で、さらなる疑問や課題に気付き探究に向かうことができた。
- ◇みんなで協力して話し合っって次にやることを決めた。次は実際に井戸を使っていた人や五右衛門風呂を使っていた人などに話を聞きたい。
- ◇昔の遊びは、自然の材料を再利用して遊び道具を作っていた。手間はかかるが、自分でやることで多くて、できることが増える。遊びながら人と触れ合って協力する力がつくと思った。

単元名

ふるさと学習

『廿日市の魅力をキャッチコピーで伝えよう』



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎どうすればより住みたくなる廿日市になるだろう？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●住みたくなる町とは、どんな町だろうか？

【単元の目標】
自分たちが住んでいる町の歴史や文化、自然や産業などについて知り、より魅力的な町になるために自分にできることを考え、実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

活動の概要

廿日市を「①自然・環境・動物 ②伝統・文化・歴史 ③観光・名所 ④産業・特産物 ⑤交通・乗り物・他地域とのつながり」の5つのテーマに分けて調べ学習をした。また、宮島での現地調査を通して、市内の別の地域と比較しながら、それぞれ良さと改善策について考え発表した。この学習を通して、廿日市の魅力を他地域の人に届けるためのキャッチコピーを考えた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

生徒の考えたキャッチコピー

『魅力がたくさん 廿日市』 『宮島にたよってばっかじゃない！！ 廿日市』
『ウッドでグッとな廿日市?美味しさも詰まっています?産業・特産品 ver』
『?この素晴らしい地域に祝福を?』『広島のばりいい魅力みていきんさい!!』
『廿っ見! ～廿日市の歴史～』 『ニュージーランド is my friend.』



【宮島にて現地調査】

廿日市の現状について調べる中で、観光名所である宮島にて現地調査。伝統文化とは何か、どのような工夫がされているのかを発見、体験することができた。

【ふるさと学習報告会】

調べて分かったことを基に、廿日市をよりよくするためのアイデアを交流。キャッチコピーも披露した。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

○ICTを活用し、歴史や伝統などそれぞれのテーマについて調べている生徒が多かった。交通に関して調べたグループは、学校の近くにある交差点の問題点を写真に撮り、改善策を提案していた。

◇自分たちの住んでいる近くにこんないいところがあるんだと思った。

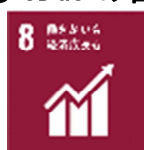
◇今回の学習で、廿日市市には私の知らなかった行事や建物の特徴などがあつたし、その2つは廿日市と宮島ではぜんぜん違うということにびっくりしました。これからは私達が伝統をしっかりつないでいこうと思う。

単元名

地域学習

「ふるさと広島県（廿日市市）を
近畿地方と比較しながら見つめる」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎ふるさと広島県（廿日市市）と将来の生活でどのようにかかわっていくか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●長く居住するためにはふるさとをどのような魅力のある町にすればよいか。

【単元の目標】

広島県（廿日市市）の理解を深め、ふるさとの魅力を紹介するために必要な情報を収集・発信し、長く居住するにはどのような町にしていけることが自分たちにできるか考え、課題を見つけ、解決しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

他地域の方々
修学旅行先のタ
クシー運転手

活動の概要

・ 班ごとに、生徒の居住地域（中学校区）から広島県について詳しく調べ、その結果を校内の学習発表会で発表した。また、広島県のパンフレットを作成し、他地域の人々に配布し、その魅力の一部を発信した。

★アピールポイント★

- ・ 活動の特色 ・ 授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・ 地域人材、財産等の活用
- ・ 児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・ 他教科等との関連 ・ ICTの効果的な活用 等



<学年発表会>



<パンフレット①>



<パンフレット②>

- ・ 情報収集にはコンピューターで検索、学習発表会向けのまとめには、クロームブックのスライドを活用した。班でテーマを決め、個人で分担して調べた後、班でまとめ、学級・学年・全校に向けて、パワーポイントで発表した。
- ・ 情報を選択し、修学旅行でお世話になる班別自主研修のタクシー運転手の方々に、広島のパンフレットを渡し、広島県（廿日市市）の魅力を紹介した。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 意外に自分達の暮らしている地域のことを詳しく知っていないことに気づき、伝統・文化・産業についての情報を懸命に探していた。
- 発表会での他グループの発表から新たな知識・情報・紹介の仕方を学び、その後のパンフレット作製に生かしていた。
- ◇学習を通して、自分自身の故郷である広島について、様々なことを再発見することができました。
- ◇この地域調べを通して、自分たちの身の周りにある文化や伝統的なものの魅力をしっかり知り、大切にしていきたいと感じました。

単元名

「ふるさと学習Ⅰ（宮島）・SDGs」

「ふるさと学習Ⅱ（阿品）・防災学習」

【関連のあるSDGsの目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎地域の課題を解決し、魅力を高めるために何ができるだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●私たちの住む廿日市はどのような特色をもっているのだろうか。

【単元の目標】
自分たちが住んでいる町について知り、課題の発見と対策を考え、地域と主体的に関わっていこうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・日本赤十字広島看護大学
- ・廿日市地域振興課
- ・国土交通省中国地方整備局
- ・廿日市健康福祉総務課
- ・廿日市自治振興部地域政策課
- 大野支所
- ・廿日市福祉協議会
- ・廿日市役所総務部危機管理課

活動の概要

- ・宮島のフィールドワークを通して、地域や自分の良さや課題を再発見することを目指す学習を行った。
- ・阿品台地区の防災について、ICTを活用して情報収集・まとめ・発表を行った。これに伴い、地域で実施された防災活動と連携して学習内容を発表した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜宮島学習＞

＜防災学習＞

＜防災地域発表＞

- ・事前に学習したことを踏まえて、実際に宮島を見学したり体験をしたりする活動を設定したことにより、**生徒が主体的に活動に取り組んだ。**
- ・防災に係る課題に対応した複数のグループを編成し、**生徒が主体的に計画・実行できるよう学習できる体制**をとった。
- ・学習したことを新聞やパワーポイントでのプレゼンテーション資料にまとめて校内で発表するとどまらず、地域で実施された防災訓練においても発表した。これにより**中学校の学習についての地域理解を深めるとともに、生徒たちの達成感を高めることにもつながった。**

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 宮島学習を通して、地元の歴史や特徴について理解を深めることができた。
- 阿品台地区における防災の取組について、調べたりまとめたりすることができた。
- ◇宮島のことを新聞にまとめるときに、内容を調べたりするのが大変でした。知っているつもりだったけれど、調べたら知らないことがたくさんあって楽しかったです。
- ◇防災学習を通して新しく知ることが多く、備蓄品に興味がわきました。備蓄品の大切さや重要さに気づくことができました。また、市民センターは意外にも物資が豊富だということが分かりました。

単元名

「宮島の観光地としての魅力を調べ、
その魅力を発信しよう！」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎自分の住んでいる地域の文化財のすばらしさを知り、それらを後世にどう伝えればよいか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●宮島にはどのような魅力があるだろうか。

【単元の目標】

・観光地としての宮島の魅力を探ろう。

【連携諸機関・人物】

・厳島神社
 ・宮島水族館
 ・県立広島大学
 秋山伸隆 先生
 ・廿日市市宮島交流センター

活動の概要

身近な観光地である「宮島」の歴史や観光地としての特色を改めて調べていくことで、新たな魅力を発見・発信できるように本目標を設定した。ICTを活用しながら情報を収集しまとめながら、インタビューや講演なども聞き情報を取捨選択しつつ魅力を発信できるよう準備を進めた。現地での調査や観光地での見学も行い、テーマ別に学年で発表を行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



<講演会を聞く>

<テーマ別のスライド作成>

<班毎の発表>

- ・インターネットで調べるだけでなく、実際に話を聞くことで今まで知らなかった宮島の魅力について興味関心をもって情報収集することができた。
- ・Chrome book を用いて発表用のスライドを作成した。スライド枚数を2～3枚に指定することで、聞き手にとってわかりやすい発表の工夫をすることにつながり、必要な情報を選択しながら発表原稿・スライドを作成することが出来た。
- ・各クラスの1～6班を6テーマに分け、さらにテーマごとに4つのグループに分けることで視野を広げ、様々な魅力を発見できるよう工夫した。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 新たな宮島の魅力を発見することで、「こんなものがあればいいのにな」という次の発想へつなげていくことができた。
- スライド作成において、「何を1番伝えたいのか」などを考え、デザインにこだわることのみに終始せず聞き手の立場に立って発表の仕方を考えることができた。
- ◇社会の一員として、自らも参画しているのだという意識を持ち、普段の生活や今後の進路学習にも視点を変えたりしながら、視野を広げて学んでもらいたい。

単元名

四季 T プロジェクト
ふるさとの魅力を見つめ、
他の地域の人に届けよう！

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎ふるさとの持続可能な発展のために何ができるか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●廿日市市の魅力を効果的に発信するには、どうしたらよいか？

【単元の目標】

- ・ふるさと廿日市市の魅力について、主体的に課題設定を行い、フィールドワーク等を通じて、協働的に情報収集を行うことができる。
- ・効果的な表現について、プロの方のアドバイスやICTを活用して探究し実践することができる。
- ・相互評価や他県とのオンライン交流会を通じて、PDCA サイクルを自らまわすことができる。

【連携諸機関・人物】

・広島大学大学院統合生命科学研究科附属宮島自然植物実験所の坪田先生、FM はつかいちの倉本局長、中国新聞社、福岡県宗像市立日の里中学校第7学年、みやじマリン

活動の概要

- 「ふるさとの魅力を探究する」とはどのようなことだろう？
 - ・多様な考察方法があることを知る
 - ①地理的・歴史的考察、②芸術的視点からの考察（造形・音楽）、③自然科学的考察、④数字で見る廿日市市（統計など）
 - ・全国の秀逸事例をみる（全国の中学生の探究）
- 【課題の設定】探究テーマを設定しよう！
 - ・探究チームごとに探究テーマを決める。
- 【情報収集・実行】情報収集をしよう！
 - ・タブレットでの情報検索、宮島での自然文化体験学習の計画立案、実行、ICTを活用したアンケート調査、同時編集機能等で情報を収集し、精査する。
 - ・自然文化体験学習では、広島大学大学院統合生命科学研究科附属宮島自然植物実験所の坪田先生から、世界文化遺産のコアゾーンに入っている森林を歩きながら専門的な話をうかがう。
- 【表現・実行】中間発表会（相互評価）！
 - ・Google form を活用し、全 16 チームの発表を評価し、評価内容を生かして、発表内容や方法を再構成する。
- 【課題の設定・情報収集】プロに表現方法を学ぼう！
 - ・FM はつかいちの倉本局長から、ふるさとや自己表現等の秘訣を教えてもらう。
- 【表現・実行】福岡県宗像市立日の里中学校の第7学年にふるさと廿日市市の魅力を伝えよう！
 - ・共に世界遺産があり、大都市のベッドタウンに位置するという学校所在地の共通点を縁に、1年間お互いに探究してきた学習の成果をオンラインによる遠隔授業で交流を行う。
- 【振り返り】振り返り・まとめ
 - ・日の里中学校の生徒の皆さんから届いたメッセージを読む。
 - ・1年間がんばってきた探究の成果と課題を振り返る。



★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜中間発表：相互評価＞ ＜遠隔授業：福岡県との交流＞ ＜宮島での自然体験文化学習＞

- ・福岡県宗像市立日の里中学校の1年生（小中一貫校なので7年生）とのICTを活用した交流会を成功させました。ここ数年、新型コロナウイルス感染症対策が各方面で続き、子供達が堂々と発表したり、交流したりする場面の減少が危惧されていました。そのような中、対話型の深い学びを、教師の想像をはるかに超える形で成功させてくれました。日の里中学校の発表からは、高齢者の方々との交流など「福祉」の視点からふるさとを考えさせていただきました。
- ・広島では中国新聞、FMはつかいち、福岡では読売新聞が子供達のがんばりを取り上げてくださいました。他県のみなさんや四季が丘中学校区や廿日市市に、元気なニュースを届けることができました。感想やメッセージの相互交流も、ふるさと廿日市市を考えるよいきっかけとなりました。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 探究テーマについて、情報収集した内容を、学年の中で中間発表会を行い、Google formを活用した相互評価を行ったり、FMはつかいちの倉本局長のお話を聞いたりした結果、生徒達自身が、発表内容や表現方法を見直す「PDCAサイクル」をまわし、修正や改善を行った。
- 自分たちで、文化祭の代休日にゴミ処理場へ調査に行き、積極的に探究するグループなども見られた。
- ◇今までにない最高の体験だった。今まで廿日市市のことをここまでくわしく考えたことがなかったけど、廿日市市の良さをたくさん見付けることができたからです。
- ◇世界遺産の島や団地がある地域の学校同士で交流ができて、廿日市市と似ていることに気付いたり、高齢者の方との交流についても考えたりすることができた。
- ◇スライドや発表の声など、相手に分かりやすく伝える力が身に付いた。



単元名

佐伯の良さを再発見しよう
～地域比較学習をとおして～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎これからも佐伯が住み続けられる町にするにはどうしたらよいだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●他の地域と違った、佐伯の魅力は何だろうか。

【単元の目標】

佐伯を知ることを通して、課題を発見し、自ら設定した課題について必要な情報を収集、整理、分析、活用する力を身につけるとともに、佐伯の良さや課題を改めて実感させる。

【連携諸機関・人物】

・国立江田島青少年交流の家

活動の概要

佐伯の自然・歴史・観光・文化などテーマに沿って魅力となるものを探求し、佐伯が住み続けられる場所となる可能性について考えた。また、宿泊研修で訪れた江田島について調べ学習をする中で、海の近くと山間部のそれぞれの特徴や魅力について比較することで、佐伯についてこれからの地域づくりについて理解を深めていく。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



<佐伯の魅力について発表>

<文化祭での展示>

<江田島についての発表>

- ・調べ学習や発表では ICT 機器を活用して、わかりやすくスライドを使って説明した。また、各グループの発表を聞き合うことで、多くの情報が得られ地域への理解が深まった。
- ・調べたことは掲示物にして、全校生徒に見てもらったり、他のクラスが調べたことについても情報を共有したりすることができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- ICT 機器を使うことには慣れている生徒も多く、画像など取り入れながら、わかりやすくスライドを作成することができた。
- 情報収集したものを、テーマに合うようまとめたり、自分の考察を付け加えたりするなど、学習の手順についても、学ぶ点が多かった。
- ◇ 佐伯の人口が減少しているという課題があるので、佐伯の特色をもっとアピールすることが大切になると感じました。
- ◇ 佐伯のことをもっとくわしく調べて、課題に対する解決策を考えて実行してみたい。
- ◇ 発表の時、班の人と協力して、わかりやすいスライドになるように話し合いました。

単元名

吉和の未来を考えるⅠ～Ⅲ

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎持続可能な吉和地域にするためにはどうしたら良いだろう？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●持続可能なまちづくりとはどうすることなのだろうか？

【単元の目標】

吉和地域の良さや課題に気づき、持続可能な吉和地域にするための方法を考え、発信・提言することができる。

【連携諸機関・人物】

・吉和地域の各事業所
・FM廿日市
・シティープロモーション室

活動の概要

『過疎化が進む吉和地域を「持続可能なまち」にするためにはどうすべきか』という課題解決のため、本単元を各学年で設定している。1年生では沿岸部の江田島と地域づくりの比較、2年生では関西の地域づくりからヒントを得るための調査活動、3年生ではまとめとして、吉和地域のよさをInstagram等で発信し、PR活動を行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜江田島現地調査活動（1年）＞



＜発表（2年）＞



＜地域情報発信講座（3年）＞

- ・どの学年においてもインタビュー活動を設定し、生徒自身が個別に課題を見つけ、解決に向けて見通しをもって、主体的に取り組んだ。
- ・地域の課題と向き合い、何を発信したら、地域外の人に興味を持ってくれるかなど具体的なことを考えた上で、事業所の方とも確認しながら、FMはつかいちのInstagram等に発信することができた。生徒にとっても達成感の持てる発信となった。
- ・タブレットを効果的に活用し、発表原稿や投稿資料を作成することができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 吉和地域のよさや魅力を他者によりわかりやすく伝えるため、情報整理や分析、データ集め等に主体的に取り組むことができた。
- ICT機器を効果的に活用する技術が高まった。
- SDGsの視点を自分事としてとらえ、考えを深めることができた。
- ◇吉和の課題に対して何ができるのか、他地域を参考にしながら考えることも大切だと気付いた。
- ◇吉和のよさをSNS等だけでなくポスター等も活用して、多くの人の目に触れるように宣伝し、もっとアピールしていきたいと思った。
- ◇実際に取材して得た情報を間違いがないように投稿するという作業はネットの使い方の勉強になったし、また、吉和の事業所への取材を通してさらに詳しくわかり、吉和が前よりも好きになった。

単元名

大野元気プロジェクト

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎人々が幸せに暮らせる町とはどのような町か

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●ふるさと大野のまちを活性化させるにはどのような方法があるか

【単元の目標】

ふるさと大野について調べ、まちをより活性化させるにはどうすればよいか考え、提案をすることができる。

【連携諸機関・人物】

- ・大野支所
- ・大頭神社
- ・学区内の商業施設

活動の概要

大野のまちに生まれ育った生徒たちが中学生の目線で、大野のまちを活性化させるためにできることは何か考えた。大野の文化や歴史、商業、観光、交通などテーマごとのグループに分かれて仮説を立て、調査したことをもとに提案した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICTの効果的な活用
- 等



＜取材をする生徒グループ＞



＜取材をする生徒グループ＞



＜発表時の様子＞

テーマに沿った現地調査を実施した。史跡・旧跡を訪問したり、町づくりに関わっている方にインタビューしたりすることを通して、大野のまちの新たな魅力を発見することができた。また、グループで協力しながら、分かりやすくスライドにまとめたり、発表の練習をしたりすることで、表現力を養うことにつながった。提案の発表のときにはお世話になった地域の方にも聞いていただき、大野支所長からはまちづくりの参考にしてほしいというコメントをいただいた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- グループで仮説、計画を立て、調査、検証する問題解決型の学習に、主体的に取り組むことができた。
- 課題発見の場面でありながら、自然豊かで経済活動も発展している大野のまちのよさにあらためて気づかされていた。
- ◇提案しようと思ったことがすでに実現されていることも多く、普段からまちづくりに一生懸命取り組んでいるのだなと感じた。
- ◇自分たちのアイデアを支所の人にほめてもらってうれしかった。伝えることは大事だなと思った。また、自分たちが町をよくしていくことにしっかり携わっていけるのだと実感した。

単元名

地域とつながる「大野を知ろう」 ～大野の魅力を発見しよう～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎ふるさと大野の魅力とはなんだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●ふるさと大野を発展させていくため、大野の魅力を伝えるにはどうしたらいいか。

【単元の目標】
・ふるさと大野を発展させていくために大野の魅力を調査し、自然、歴史、文化・伝統、産業、それぞれの分野での魅力をまとめ表現しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】
・浜毛保漁協・大野鉱山
・大野図書館・大野西国街道
・倉本しゃもじ工場
・大頭神社・山根対敵堂
・廿日市役所大野支所
・etto・はつばな果蜂園
・高津堂・まちの駅ADDA大野

活動の概要

大野を発展させていくために大野の魅力についてインターネットやフィールドワークなどで調査し、自然、歴史、文化・伝統、産業、それぞれの分野での大野の魅力をまとめ、グループごとに調べた内容をスライドにまとめ、発信した。

★アピールポイント★

・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- ・導入では、生徒自身が知っている大野について考えさせ、意見を出させる中で調べる文や内容を整理し、興味関心がある項目を主体的に調べられるようにグループごとに課題を設定した。
- ・事前調査の段階では、タブレットを活用し、インターネット上の情報について収集し、フィールドワークの際に疑問点、詳しく知りたいことなどをまとめることができた。
- ・グループごとにフィールドワークを実施し、訪問先でのインタビューや取材を通じて情報を収集し、魅力を伝えるための課題等についても気づくことができた。
- ・まとめの発表に向けて、タブレットを活用しスライドの共同編集を行った。課題の整理や魅力の提案についてなど、グループで協議しまとめる際に役立った。
- ・まとめの発表は、学年で行った。スライドを使い、全体にわかりやすく報告を行うことができた。学校代表に選ばれたグループは、オンラインによる報告会にも参加した。



児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 地域の自然、歴史、文化・伝統、産業について他者にわかりやすく伝えるために、主体的に情報を集め自分の住む地域の素晴らしさを知ること誇りに思う気持ちを深めていた。
- グループで発表準備をすることで、情報整理や、まとめ方の工夫をすることができていた。
- ◇フィールドワークの中で地域の人にインタビューすることで、大野の魅力について再発見できた。再発見したふるさとの魅力を他の人に伝えたいと思うようになった。
- ◇自分たちが調べたことをどうやったら他の人に伝えることができるのか試行錯誤しながら伝わりやすいスライドをつくることができた。

単元名

宮島☆未来プロジェクト

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎宮島が世界に誇れる宮島でありつづけるためにどうすればよいだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●宮島を元気にするために私たちができることは何だろうか？

【単元の目標】

小学1年生から行ってきた宮島の学びを元に、生徒一人一人が宮島の現状から課題を設定し、解決に向けて取り組む中で、地域の人々の思いや取組に気づき、学んだことを活かしながら自分たちにできることを考え行動しようとする。

【連携諸機関・人物】

- ・廿日市役所
- ・宮島支所
- ・宮島民俗資料館
- ・宮島水族館
- ・ぎやらしい宮郷
- ・存光寺
- ・松大汽船
- ・やまだ屋
- ・広島大学附属宮島自然植物実験所

活動の概要

「10年後も世界に誇れる宮島であるために」、個人が探究課題を設定し、課題解決に向けての方法を考えた。その際には、身の周りの人にアンケートをとったり、宮島に関わる様々な方々からお話を伺ったりする中で、自分の考えを深めた。

★アピールポイント★ 地域人材、財産等の活用



〈インタビュー〉



〈地域の方と〉



〈発表の様子〉

- ・実際に地域の方にインタビューする活動を設定することで、宮島に関わる人々の思いを知り、自分の考えを見つめ直した。
- ・アンケート作成ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用し、効率よく視覚的にも伝わりやすい資料を作成する活動を行った。
- ・宮島学園で行われた研究会に参加された他校の先生方に対して、自分の探究結果を、探究課題と関係のある宮島島内の各所で発表するという活動を行った。様々な方々から質問や意見・アドバイスを直接いただき、自らの活動を振り返るとともに、新たな課題を設定した。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 地域の方々と話をする中で、今まで気がつかなかった思いに気づくことができた。
- ◇自分は流行や新しい店を作ることがよいと考えていたが、宮島のためにはもともとの良さを守ることが大切なのだった。宮島らしさをもっと見つけたい。
- ◇自分の課題を再認識することができた。納得がいくまでどんどん調べたい。